



## サプライチェーン混乱で潤う海運業界

子供たちが楽しみなクリスマスプレゼントの箱を開ける前に、世界中の港湾業者はもっと大きなコンテナの箱を処理する必要がある。英国の代表的なコンテナ港であるフェリクストウ港の渋滞がひどいため、デンマークのコンテナ船世界最大手APモラー・マースクは自社船を欧州の他の港に回送することにした。海の貨物輸送ルートを塞ぐサプライチェーンの目詰まりはまだ数カ月間続く可能性がある。

フェリクストウ港のコンテナの滞留はクリスマスに向けて在庫を備蓄したい英国の輸入業者にとって深刻な問題だ。同港は英国最大のコンテナ港で、英国の海上コンテナ貨物の36%を取り扱っているのに、空のコンテナが山積みになり、満杯のコンテナの保管や荷降ろしができなくなっているからだ。

### コンテナ運賃、1年で3倍に

これは市場の失敗のように思われる。空のコンテナは貴重で、価格は2倍を付けている。満杯で輸送すれば相当な利益があるからだ。世界的にみても海上コンテナ運賃は40フィートコンテナ1個あたり平均1万ドル以上と、1年前の3倍に跳ね上がっている。それなのに、コンテナは山積みになり輸送を妨げている。

逆張りをする投資家は、2月上旬の中国の春節前の小康状態がサプライチェーンを立て直す好機になると期待している。いずれコンテナ船の数は増える。米バーンスタイン・リサーチによると、コンテナ船の新規建造発注は運航船の25%以上と急増している。ただし、建造中の船の数は変わっていないし、輸送会社の株価もここ数カ月下落している。

ところで、サプライチェーンの逼迫は海上だけでなく、陸上輸送でも問題になっている。英国ではトラック運転手が不足し、港で荷降ろししてもすぐには顧客のもとに運べない。鉄道貨物輸送能力も限界に近い。英鉄道・道路規制庁によると、貨物列車の走行距離は4～6月期に852万キロメートルと5年ぶりの高水準を記録した。

渋滞に悩まされているのはフェリクストウ港だけではない。船は平均7.6日遅れで目的地に到着している。これは過去3年間の平均の2倍近くにあたり、遅延はさらに長引いている。海運会社は年内に再び通期の利益を上方修正すると予想される。



2021年 10 月 18 日 担当 小松

## 原油先物、需給逼迫観測で上昇 週間では2%超の上げに

[メルボルン 15日 ロイター] - 原油先物価格は15日、上昇している。週間では2%超の上げとなる見通し。天然ガスや石炭価格の高騰で石油製品に切り替える動きが広がる中、今後数カ月、需給が逼迫する可能性が高まっている。

0156 GMT (日本時間午前10時56分) 時点で米WTI先物は0.30ドル(0.4%)高の1バレル=81.61ドル。

ブレント先物は0.28ドル(0.3%)高の同84.28ドル。

アナリストは、経済協力開発機構(OECD)の原油在庫が2015年以来の低水準になっていることが材料視されていると指摘。天然ガスや石炭価格の高騰を受けて、産業界が電力供給を石油製品に切り替えていることも相場を支援している。

国際エネルギー機関(IEA)は14日公表した月報で、世界的なエネルギー不足で石油需要が日量50万バレル増加するとの見通しを示した。また、石油輸出国機構(OPEC)プラスの今年第4・四半期の生産量が推定需要を日量70万バレル下回ると予測。少なくとも年内は需要が供給を上回るとの見通しを示した。



## NY商品、原油が続伸 一時7年ぶり高値 金は反落

【NQNニューヨーク=戸部実華】15日のニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場は続伸した。WTI（ウエスト・テキサス・インターメディアート）で期近の11月物は前日比0.97ドル（1.2%）高の1バレル82.28ドルで取引を終えた。一時は82.49ドルと期近物として7年ぶりの高値を付けた。世界的なエネルギー不足を背景とした需給の引き締まりを意識した買いが優勢だった。

朝方発表の9月の米小売売上高が市場予想に反して増え、堅調な米景気を受けた原油需要の拡大観測も相場を支えた。

国際エネルギー機関（IEA）が前日に発表した月報で、2021～22年の世界の石油需要見通しを上方修正した。天然ガスや石炭の価格上昇で代替エネルギーとして石油需要が増えるとの見方を示した。15日も原油需給が逼迫した状態が当面は続くともみ買いが続いた。北海ブレント先物相場は15日、一時85ドル台と3年ぶりの高値を付け、WTIも連れ高した面があった。

良好な米経済指標を受けた買いも入った。9月の小売売上高は前月比0.7%増と市場予想（0.2%減）に反して増加した。バイデン米政権が15日、米国に入学する外国人旅行者への入学制限を11月8日に撤廃すると発表した。入学を原則禁止していた国からも新型コロナウイルスのワクチン接種証明があれば入学できるようになり、ジェット機燃料などエネルギー需要が拡大するとの観測を誘った。

石油サービス会社ベーカー・ヒューズが15日に発表した米国の原油生産向けの掘削設備（リグ）稼働数は前週から12基増えた。ただ、世界的な需給の引き締まり観測が強く、相場への影響は限られた。

ニューヨーク金先物相場は4日ぶりに反落した。ニューヨーク商品取引所（COMEX）で取引の中心である12月物は前日比29.6ドル（1.6%）安の1トロイオンス1768.3ドルで取引を終えた。米長期金利が一時前日比0.06%高い1.57%を付け、金利の付かない資産である金の投資妙味が薄れるともみ売りが優勢だった。米株高や暗号資産（仮想通貨）のビットコイン価格が約半年ぶりに6万ドル台を回復したことを受け、投資家のリスク選好姿勢が強まったことも金先物売りを誘った。



## ANA、再生燃料利用で証書 日本通運などとコスト分担

全日本空輸（ANA）は14日、航空機の脱炭素につながる「持続可能な再生燃料（SAF）」の利用を企業と協力して促進する取り組みを始めたと発表した。SAFを使った同社の航空機で貨物を運ぶと、SAFのコストを一部負担する代わりに証書が発行され、環境に優しい輸送を使ったことを取引先や投資家に情報開示できるようにする。まず日本通運など貨物事業者3社と始め、今後、旅客便での活用も目指す。

新たに始めた取り組みは「SAFフライトイニシアチブ」。第1弾として日本通運、近鉄エクスプレス、郵船ロジスティクスの3社が参加する。3社はすでに9月末にSAFを搭載したANAの貨物便を使った輸送を行い、このほどANAが証書を発行した。

発行する証書は環境に優しいフライトを使ったことを証明するもので、第三者機関の認証を受けた。貨物事業者は輸送での二酸化炭素（CO2）削減への貢献を取引先や投資家に開示する際に証書を活用できる。こうした取り組みは欧米の航空会社が先行するが、日本では初めて。

今後、貨物だけでなく、出張で航空機を使う企業も利用できるようにする。新型コロナウイルスの影響で出張は減っているが、将来的な再開を見込む。

旅客便を対象とした取り組みの開始時期と料金設定は調整中だが、航空機を出張で使う頻度の高い上場企業などを対象に、参加を促していく。

取り組みを始めた背景に世界的な脱炭素の流れがある。特に航空輸送を使う荷主の間で、輸送時のCO2排出量の開示を重視する傾向が世界的に強まっているためだ。今後、輸送に関わる貨物事業者も環境負荷を開示する必要性が増している。

SAFは廃油や植物を原料とした再生燃料で、航空機運航のCO2排出量の8～9割を実質減らせる。しかし、世界の供給量は航空燃料全体の1%以下。コストも既存のジェット燃料の3～5倍と高い。ANAは取り組みを通じ、SAFのコストを輸送網全体で負担できる仕組みをつくり、普及にもつなげたい考え。

ANAの平子裕志社長は同日の記者会見で「SAFに関する具体的な取り組みは欧米諸国で先行し、残念ながら日本は大きく立ち遅れている」と危機感を示した。その上で「産業界全体で認知を広げ、SAFの量産と普及を目指していく。多くの企業の皆様にご理解とご協力をお願いしたい」と話した。





## 説 これもバブル 社 油価の高騰

(1)

WTI先物が2014年10月以来、7年ぶりに80ドル台で推移するなど原油価格は騰勢を強め、LNGなど他のエネルギー価格上昇と相まって世界的なユースになっている。サウジアラビア産原油のアジア向け調整金は10月の際1ドル70セントに続いて11月も40セント（アラビアライトの場合）下がるが、市場は構わず上げ続けている。

(2)

サウジは原油価格決定理由を一切公表しないが、原油情勢に詳しい業界関係者からは、OPECプラスの協調減産緩和に対応して、販売を拡大するねらいがある。との見方が聞かれる。ロシアと並んで世界2位の産油国が、販売拡大を図ろうとしているなら、油価は下がってもよさそうだが、サウジが調整金の大幅値下げを決めた9月上旬以降で、WTI価格は12ドル以上も引き上がった。

(3)

日本のバブル時代には豊富な投機資金が不動産に集中し、本質的な不動産価値とは離れて価格が高騰した。足元のエネルギーも似た構造で、原油の需給バランスには供給に支障を来すほどのひっ迫感を感じないが、価格は上がり続けている。前回の元売仕切りは2円50銭、3円上昇したが、次も2円前後の値上げの可能性が高い。地政学リスクのような明確なきっかけがなく危機意識を醸成しにくい。原油価格が、業界関係者が相年度の覚悟でコスト転嫁に臨まなければならない水準に至ったことは間違いない。